

東北の復興を牽引する 経済活力都市仙台を 目指して

仙台商工会議所 会頭 鎌田 宏



本年は、震災からの復興に向けて本格的に歩みはじめる、スタートの年です。

昨年は、あまりにも辛い一年となりました。震災から、十カ月が経過しようとしている中で、昨年十一月に二〇一一年度第三次補正予算が成立し、ようやく復興に向けた道筋が見えて参りました。しかしながら、被災地においては、沿岸地域の再生をはじめ、雇用や集団移転の問題など、数多くの課題が、いまだ山積しております。

地域の経済と雇用を支える、中小企業の再生なくして地域経済の将来はありません。私ども仙台商工会議所は、地域総合経済団体としての役割を果たすべく、昨年取りまとめた提言に示された、「新しい地域経済・社会の形成」、産業・企業の早急な再建、「風評被害の払拭と地域活力増進」という三つの柱を機軸に、仙台が東北復興の牽引役となるべく、力を発揮して参りたいと存じます。

特に本年は、復興に向けて、企業や個人の力では立ち行かない課題等に対し、会員の皆さまの声を聞きしながら、国や自治体等への要望活動を積極的に行うとともに、物流、人的交流の要となる道路、鉄道、港湾、空港等のインフラの早期整備、復興特区を生かした企業立地支援や、新産業創出、復興関連需要の域内還元など、さまざまな施策を通じて、新たな地域経済・社会の形成を目指して参ります。

また、産業・企業の早急な再建に向け、資金繰り相談はもとより、昨年九月から本格稼働いたしました「遊休機械無償マッチング支援プロジェクト」を通して、仙台市内のみならず、宮城、岩手、福島各県の沿岸被災地商工会議所の会員企業に対しても、全国に眠る遊休工作機械を提供し、被災地域の復興を後押しして参りたいと存じます。

さらに、風評被害払拭と地域活力推進を目指し、本年四月～六月の三カ月間、「仙台宮城【伊達な旅】春キャンペーン」を、官民が一体となり実施いたします。本キャンペーンでは、来年春に本県で二回目の開催となる「仙台・宮城デスクティネーションキャンペーン」の実施に向け、前回のデスクティネーションキャンペーンで醸成された「おもてなしの心」を生かしながら観光の機運を盛り上げて参りますとともに、同時期に開催されます岩手県のデスクティネーションキャンペーンや、昨年引き続き盛岡市で開催予定の「東北六魂祭」、今年結成予定の東北の四季の祭りのネットワーク等との連携により、相乗効果を生み出し、交流人口の拡大に努め、仙台・東北を元気にして参りたいと思っております。しかしながら、国内外の経済に目を向けますと、大変厳しい状況が予想されます。海外においては、欧州の財政問題に端を発した負の連鎖や、世界経済を牽引してきた新興国の減速。国内では、超円高や、エネルギーの供給制約、産業の海外移転による空洞化の進展、TPPへの的確な対応、税と社会保障の一体改革の動向などが懸念されております。

私ども仙台商工会議所は、日本商工会議所を中心とした五百十四の全国ネットワークの強みを生かしながら、宮城県や仙台市をはじめ関係機関との連携もより一層密にし、東北の復興を牽引するという強い気概を胸に、個々の企業に対する経営支援や会員間の交流事業も含めた従来通りの各種事業も積極的に展開し、諸課題の解決にあたって参りたいと存じます。

改めて、会員の皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。